

取組名称	未来へつなぐ農業プロジェクト			団体設立後の経過年数	79年
応募取組主体名称	栃木県立那須拓陽高等学校	活動地域	栃木県 那須地域	活動年数	11年目
取組主体の種類	企業 / <u>学校</u> / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / <u>ユース部門</u> (概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください) / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / <u>子どもエンパワーメント賞</u> / 環境と福祉賞 / <u>環境地域ブランディング賞</u> / 環境ひとづくり賞 / <u>環境社会イノベーション賞</u> / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

那須拓陽高校農業経営科では、農業と環境にかかわる2つのプロジェクトを行っています。

1つ目は「オシラクブナの里創造計画」(以後①と略)として、天然記念物のミヤコタナゴの野生復帰を目指しています。タナゴ類が産卵するマツカサガイの繁殖試験を行っています。2つ目は「バイオマスプラスチック生産実証試験」(以後②と略)として、企業と連携して温室効果ガスを削減しています。2つを合わせて「未来へつなぐ農業プロジェクト」としました。

実績の要旨

①の活動では、子孫を残す過程に不明な点が多いマツカサガイの繁殖に成功。生息環境を変えて試験を行い、得られた知見を令和6年度日本水産学会秋季大会高校生ポスターの部で発表します。

②の活動は、SBプレイヤーズ(株)(ソフトバンクグループ)と連携して地域の農家とともに多収系の飼料米を栽培し、中干期間延長によるメタンガス削減を検証、収穫した米をバイオマスプラスチック原料としてゴミ袋を製作しました。校内のゴミ袋をバイオマスプラスチック製に変更、また、行政・関係企業と合同で地域のごみ拾いイベントを開催しました。

取組評価の要旨	環境への貢献	①準絶滅危惧種の生息地を増やすなど、2次的な自然を再生する活動です。②稲作の過程でメタンガスの排出を削減、ゴミ袋で二酸化炭素排出を削減しています。
	社会・経済への貢献	①地域農産物のブランド化を目指します。②中干期間延長によるJクレジット取得を目指します。ピンポイント施肥により肥料費の節減をしています。
	地域資源の活用	①地域に点在するため池の調査、かい掘りを行いました。①②那須塩原市・市内の企業と協働で行っています。
	普及・汎用性	①2次的な自然を再生するために有機栽培面積を増やしていきます。②米を使ったバイオマスプラスチックを認知・普及させています。
	革新・ユニーク性	①ミヤコタナゴの産卵母貝を繁殖させています。②那須塩原市が企業とのマッチングを行い、産官学連携でイベントを行いました。
	継続性	①学科の課題研究で10年間引き継がれています。これからも継続します。②企業との連携は継続予定です。

展望の要旨

農業と環境の調和、持続可能な農業経営・地域社会を目指しています。